

同志社大学

2010年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年 3月 18日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・スタ ディーズ研究科	助教	見 原 礼 子
研 究 題 目	紛争後地域の教育復興における宗教者・宗教組織の役割に関する基礎的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>基礎的研究の1年目である2010年度は、先行研究のレビューとともに、児童の教育支援や保護に携わる国際援助組織と宗教者・宗教組織が協同して紛争後地域の復興に従事する際、これまでどのような利点と課題を抱えてきたのかを中心に検討してきた。</p> <p>その結果、最も大きな課題の一つとして、ある活動に取り組むにあたり重要となる鍵概念や思想に対して用いられるタームに大きな違いがあるという問題が浮き彫りとなった。すなわち、宗教者や宗教組織が信仰的な意味合いを含めて用いるタームを国際援助組織側は使用したがらず、またその逆の場合も生じるのである。このことから、いかに両者の間の「翻訳」作業を行うかが、協同事業を円滑に進めるにあたっての重要な要素となることが明らかとなった。</p> <p>他方、利点としては、国際機関や国際NGOなど多くの関係者にとって中立的な立場とみなされる組織が宗教者や宗教組織とともに、また時には宗教者や宗教組織間の橋渡し役として復興事業に携わることにより、その地域の文化や習慣に精通している宗教者や宗教組織であるからこそないうる支援が可能となる。</p> <p>以上の点を踏まえたうえで、両者の連携の具体的な事例に着目していくことが来年度からの課題となる。</p>	